製造業向け デューデリジェンス（DD）評価項目一覧 と 実務家紹介

田中 重徳

- 製造業向け Pre-DD／DD／PMI 実務家
- Metric Japan 株式会社 代表
- Email: shigenori.tanaka@metricjapan.com
- LinkedIn: linkedin.com/in/shigenori-tanaka-59902b130

1. プロフェッショナル紹介（DD／PMI／製造業改善）

製造業を中心とした中堅企業に対し、Pre-DD（初期調査）／DD（本調査）／PMI（統合）／経営改善／現場改善 を20年以上実務で担ってきました。 工場の現場（品質・工程・原価・在庫）と、経営管理（財務・KPI・ガバナンス）を一体で評価できる点が強みです。

欧州系産業機器メーカーの日本法人では、営業利益を 100 百万円 → 300 百万円へ 3 倍化。 また、800 百万円規模の製造業事業買収と PMI 統合を実行し、財務・オペレーション・組織の統合を主導しました。

投資家・買い手企業が必要とする「リスクの早期把握」「改善余地の可視化」「価値創出ポイントの特定」を、 実務に基づく視点で提供いたします。

2. 製造業向け DD チェックリスト（通常 DD の深度）

A. 競争優位性・差別化要因（投資判断の核心）

- 競合に対する技術・品質・納期の優位性
- 顧客にとってのスイッチングコスト
- 特殊工程・ノウハウの有無
- ISO 等の認証状況
- AfterMarket／サービス収益の可能性
- 成長産業／衰退産業への依存度
- 競争優位が 3〜5 年持続するか

B. 設備状態・設備更新（事業継続・拡大のための必須項目）

- 主要設備の年式・状態
- 保全記録・故障頻度
- 自動化レベル（競合比較）
- 生産ボトルネックの有無
- 事業継続・拡大に必要な設備投資額
- 大規模投資なしで増産可能か
- 環境規制への適合状況

C. 経営管理・財務（精度・信頼性）

- 月次決算の精度（棚卸・締め・調整）
- 売上・粗利・営業利益の 3〜5 年推移
- ERP の製造原価と P/L の製造原価の乖離
    - 乖離の大きさ
    - 原因（BOM 不備・配賦・棚卸差異・無償追加原価など）
- 在庫評価（滞留・陳腐化・評価損）
- 予算・KPI の有無と成熟度
- 資金繰り・短期借入依存度
- 主要顧客・主要仕入先の集中度
- ガバナンス（承認フロー・権限規程）

D. 工場オペレーション（現場実態の把握）

- 生産フロー（ボトルネック・レイアウト）
- 品質（不良率・手直し・クレーム）
- 工程安定性（ばらつき・属人化）
- 設備状態（保全・故障）
- 在庫水準（原料・仕掛・製品）
- 生産計画・リードタイム管理
- 安全・5S・基本管理レベル

E. 組織・人材

- 経営陣の能力・後継リスク
- 現場監督者・技能者のレベル
- 離職率・モラール
- 人事制度（評価・教育・役割明確性）
- オーナー依存度

F. 負債・潜在リスク（中小製造業で最も見落とされる領域）

- 貸倒リスク（売掛金のエイジング・顧客の財務健全性）
- 退職給付債務（未認識債務の有無）
- 貸倒引当金（保守的か／楽観的か）
- 製品保証引当金（不良率との整合性）
- 滞留在庫引当金（評価損の妥当性）
- オフバランスの債務
- 訴訟・コンプライアンスリスク
- 建設業許認可の取得状況（５百万円以上の客先での工事を施工する場合には必ず必要)

G. レッドフラッグ（早期に把握すべき重大リスク）

- 月次決算が締まらない／精度が低い
- ERP と P/L の原価計算が大きく乖離
- 過剰在庫・隠れた評価損
- 顧客集中度が高い（40%以上）
- 品質データが未整備
- KPI がない／管理が属人的
- オーナー依存度が高い
- ガバナンスが弱い／重要規程が未整備

H. バリューアップ（価値創出余地）

- 価格改善
- 原価改善（材料・不良・手直し）
- 在庫最適化
- 生産フロー改善
- AfterMarket 収益拡大
- KPI 導入・管理体制構築
- DX（IoT／AI による品質・工程安定化）